

多田謡子

反権力人権基金

News

No.17 2023/06/10

発行・多田謡子反権力人権基金運営委員会

<https://tadayoko.net>

2022年12月17日

第34回受賞発表会を開催しました



多田謡子反権力人権基金は、2022年12月17日、東京・お茶の水の連合会館に80名が参加して、第34回反権力人権賞受賞発表会を開催し、受賞者された次の方がたの講演を受けました。

- ・ ミンスイさん
(在日ミャンマー人の生活、権利擁護活動、ミャンマー民主化運動)
- ・ SOSHIREN 女(わたし)のからだから
(産むこと・産まないことへの国家管理に抗議する活動)
- ・ いのちと暮らしを守るオバアーたちの会
(石垣島での軍事基地反対運動)

基金からは各受賞者に多田謡子の著作「わたしの

敵が見えてきた」と賞金30万円が贈られ、発表会終了後には、コロナ禍の中止してきた記念パーティーが3年ぶりに開催されて、参加してくださった皆さんと受賞者との交流を深めました。

ロシアによるウクライナ侵略によって世界は戦争の時代へと逆戻りして、東アジアでも際限のない軍備拡張競争が続いています。こうした中で、戦争のない世界を実現するために、私たちには何ができるのか？ 多田謡子反権力人権基金は、人権と自由を守ろうとする世界中の人びと、平和に生きる権利を守ろうとする世界中の人びとと手を結び、考え、そして行動していきたいと思います。

12月16日に予定している第35回受賞発表会には、たくさんの皆さまが参加してくださるようをよびかけます。

多田基金は継続のためのカンパを呼びかけています。

第34回受賞発表会

2022年12月17日 連合会館（東京・お茶の水）

ミンスイさん

（在日ミャンマー人の生活、権利擁護活動、ミャンマー民主化運動）



1988年、軍事政権に反対する大きな民主化闘争が弾圧され、目の前で、国軍の銃撃によって人びとが殺されるのを目撃したミンスイさんは、日本に来て働きながら、人権とは何か、民主主義とは何かを勉強し、2002年に結成された在日ビルマ市民労働組合で、長年、会長として在日ミャンマー人の人権と祖国民主化のために闘ってきました。

ミャンマーでは総選挙で82パーセントの得票で圧勝した、アウンサンスーチーさんを中心とする政権が、2022年2月の国軍によるクーデターで倒されました。クーデターに反対するデモが全土に拡大しましたが、国軍による徹底的な弾圧が続いています。クーデターに抗議する圧倒的な人びと、平和的な抗議運動に対し、整列し水平に銃をかまえる国軍、傷つき斃れた人びとが、スクリーンに映されました。「軍隊や警察は国民を守るためにあるはず。その軍隊や警察が国民を殺す。とても信じられないことです」とミンスイさんが述べると、会場からは国軍に対する大きな抗議の声があがりました。

続いてスクリーンに、クーデターに反対し、日本政府に軍事政権への支援をやめるよう訴えて、在日ミャンマー人5000人が外務省を包囲する写真が映されました。ほとんど報道されない在日ミャンマー人の闘いの写真は、今日、どれほど広範なミャンマー人が、国軍による殺戮に怒り、祖国の民主化を求めているのかを示していました。

戦後独立したビルマ（ミャンマー）では長いあいだ軍事政権が続き、海外からの情報は遮断されて、人びとは民主主義も人権も自由も教えられない時代が続きました。しかし、沢山の犠牲を生みながら繰り返された民主化運動の中で、ミャンマーの人びとの闘いは、もう押し止めることのできない流れになっています。

「日本政府は、安倍首相一人の国葬にミャンマー軍事政権を招待しましたが、ミャンマー国軍は今回のクーデターで少なくとも2500人を殺しているの

です。日本政府が機材やノウハウを提供し、選挙は『公正に行われた』と外務省がホームページに書いた政府を、暴力で倒した軍事政権を支えるのは認められません」とミンスイさんは述べました。岸田政権にミャンマー軍事政権支援をやめさせることは、私たち日本人の大きな責任です。

ミンスイさんは最後に、日本での「先輩であり、兄貴です」と述べて、在日ビルマ市民労働組合の初代委員長、ティンウィンさんを紹介しました。ティン



ンウィンさんは「世界のために、人権のために、平和のために、みんな一緒に頑張りましょう」とあいさつ、ミンスイさんも「私たちの人権だけでなく、皆さんの人権、世界の人権、世界の平和のために頑張ります」と述べて講演を終えました。

SOSHIREN 女(わたし)のからだから

（産むこと・産まないことへの国家管理に 抗議する活動）



「産めよ増やせよ」と兵力増強のために使われた女の体、封建的な家制度を存続させるための出産の強要や優生思想に基づく選別など、むき出しだった女の体の収奪はかたちをかえて続き、男社会と国家による女のからだの支配は過去のことではありません。「SOSHIREN 女(わたし)のからだから」は3人の方が登壇して、1982年からの40年間の闘いを報告してくださいました。

【優生保護法改悪阻止の闘い】（中村早苗さん）

1982年、優生保護法の中絶許可条項のなかから「経済的理由」を削除するという改悪案が浮上しました。それを阻止するために結成された「'82優生保護法改悪阻止連絡会」は、同年11月「産むのは女(わたし)たち、産まないと決めるのも女(わたし)たち」という大集会を1,100人で開催。翌年3月、厚生省前にテントを張って「学生の会」がハンストを執行し、日比谷公園に2,000人が

結集した全国総決起集会を経て、既成の女性団体、障害者団体、労働組合、医師会、看護協会、さらに与野党を横断する婦人議員懇談会までの幅広い闘いで、改悪案の国会上程を阻止しました。

【1983年以降】(長沖暁子さん)

1984年、国連の人口政策に対抗して、第4回女と健康国際会議が「人口政策はいらない。女が決める」という主張でひらかれました。そこでは、先進国の女たちに産むことが強制される一方で、開発途上国や先進国のマイノリティー、障害者や移民、先住民族などに対して「産まないこと」が強制されていることが、リプロダクティブ・フリーダムという主張で批判されました。その言葉を「女(わたし)のからだは女(わたし)のもの」と訳して広げ、その後も国際的な生殖工学、遺伝工学に抵抗する運動などに参加しています。

1985年から2012年まで10回にわたって開催した「女(わたし)のからだから合宿」では、女のからだをめぐる多様なことがらに取り組みました。1996年、名称を「SOSHIREN 女(わたし)のからだから」に変更し、講座や学習会を続け、発行してきたニュースは393号になりました。

【最近の活動】(岩崎眞美子さん)

世界80カ国以上で使用され、WHOも「安全で効果的」と推奨している経口中絶薬。しかし日本では長く承認されず、体に負担の大きい外科的手術が行われてきました。2023年4月ようやく承認されましたが、規制が多く費用負担は手術なみに高くなると言われています。配偶者の同意がなければ中絶できない現状も大きな問題です。SOSHIRENは学習会やイベントに取り組み、広範な団体と一緒に厚労省・法務省交渉に取り組んでいます。

「女性が自分自身のからだの決定をする。その選択の力を信じる。女性の力を信じることがだいじ」という岩崎さんの訴えに大きな拍手が沸きました。

いのちと暮らしを守る
オバアーたちの会
(石垣島での軍事基地反対運動)



いのちと暮らしを守るオバアーたちの会からは、体調を崩された会長の山里節子さんにかわり内原節子さんが上京してくださいました。講演はネットで石垣島と結んで行われ、石垣会場には山里節子さんの他に会員の皆さんが参加してくださいました。



内原さんのあいさつの後、山里さんがまず「2016年に防衛省がいきなり、こんな小さな石垣島に軍事基地をつくると言ってきた。私たちはどんな理屈をつけても、嫌なものは嫌だと……。説明会当日にオバアーたちの会を立ち上げて、足掛け7年、毎週、島のあちこちで抗議スタンディングを続けて来ました」と話す大きな拍手が沸きました。

1955年～56年の石垣島の生活と風景を記録した貴重なフィルムが上映されて、開拓も農業もみな人の手によって行われ、道路も舗装されずでこぼこ道で、水牛が農地を耕していた当時の風景や、部落総出の運動会、ゆいまーるによって助け合いながら家を作る様子など映し出されました。画面を見ながら、山里さんがなつかしように「私たちはみどり深い、とっても自然豊かな、小さい島ですが、山があり川があり、道があり……こうした島で暮らしていました」「モノや金がなくても、緑豊かに、心豊かに暮らせ島でした。そういうものを取り返したい思いでしたが、それを打ち砕く軍事化の話がきました」と話されると、オバアーたちの会が守ろうとするもの、残そうとするものが何なのかが、参加した人びとに深く伝わりました。

陸上自衛隊の基地に配備されるミサイルは固定式ではなく車載のミサイルです。島中を走り、発射したら撃ち返されないよう即座にその場を離れて逃げ回ります。島で暮らす人びとには逃げ道、逃げるところも隠れるところもありません。

「大きい声で言いたいのは、私たちの島には戦争とか戦(いくさ)に匹敵する言葉がないということです。島の人たちは戦争が何であるかを知らないで、連綿と生きてきました。戦争なんかなくて、みんな幸せに暮らしていけるんだということ、悠久の昔から肌でしめしながら生きてきたのが、私たちの先達でした。これを誇りに思いつつまでも持ち続けていきたいし、次の世代にも次の次の世代にも残しておきたいと思っています」と山里さんは締めくくりました。

その後、石垣の会場に参加してくださったオバアーの会の皆さんが、一人一人自己紹介で、ミサイル基地に反対するそれぞれの思いを話しました。最後に、山里さんは「多田謡子にささげる」とおっしゃって琉球王朝への抵抗の歌である安里屋ユンタと、オバアーたちの会がスタンディングで歌う歌を披露。山里さんと会場は一つになって歌いました。

多田基金の詳しい情報はホームページでご覧いただけます。

<https://tadayoko.net>

第35回多田謡子反権力人権賞 候補者推薦のお願い

2023年6月
多田謡子反権力人権基金運営委員会

本年度も、下記要領で多田謡子反権力人権賞の候補者推薦を受け付けます。自薦、他薦は問いません。多数のご推薦をお待ちしています。(これまでの受賞者は当基金のホームページで閲覧できます。)

※多くの皆さまのご支援により、副賞賞金を
30万円に増額することができました。※※

・賞の内容

多田謡子の著作「私の敵が見えてきた」および
金30万円の贈呈

・選考基準

国家権力をはじめとしたあらゆる権力に対して
闘い、自由と人権を擁護するために活動してい
る個人または団体

・推薦方法

自薦、他薦とも可。候補者名と活動分野の簡単
な紹介を付して、文書で下記住所に郵送、F A
Xまたはe-mailでお送りください。

・推薦締切

2023年8月31日

注!! 締め切りが1ヶ月早くなりました。

・推薦受付先

〒105-0004

東京都港区新橋2-8-16

石田ビル5F 救援連絡センター気付

多田謡子反権力人権基金運営委員会

TEL 03-3591-1301

FAX 03-3591-3583

e-mail web@tadayoko.net

お問い合わせにはできるだけe-mailをご利用く
ださい。なお、受賞者には受賞発表会での講演をお
願いいたします。

12月16日(土)受賞発表会を 開催します。

- 第35回多田謡子反権力人権賞受賞発表会
 - 日時 12月16日(土) 午後2時~5時
 - 場所 連合会館201号室
東京・御茶ノ水駅から徒歩5分
 - 発表会后、同所で記念パーティーを行います。
 - 発表会、パーティーとも参加費無料です。
- ※ コロナ禍により予定変更の可能性があります。



基金継続のための寄付のお願い

郵便振替用紙を使った振込み

寄付と明記し、氏名、住所をお書き下さい
口座番号 00110-2-356484
口座名称 多田謡子反権力人権基金

金融機関の口座からの振込み

- ◎ 記号・番号を使った振込み
・ 記号 00110 ・ 番号 356484
- ◎ 店名(店番)を使った振込み
・ 銀行名 ゆうちょ銀行
・ 店名 〇一九店(ゼロイチキューウ)
・ 店番 019
・ 預金種目 当座
・ 口座番号 0356484
・ タダヨウコハンケンリョクジンケンキキン
(金融機関からの振込ではお名前、ご住所がわかりません。
メールでお知らせいただければ領収証をお送りします)

多田謡子反権力人権基金 N e w s

No. 17 2023年6月10日発行

編集・発行 多田謡子反権力人権基金運営委員会

〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5F 救援連絡センター気付
TEL 03-3591-1301 FAX 03-3591-3583 e-mail web@tadayoko.net